

小学校における消費者教育の授業検討

—身近な物の選び方に焦点を当てて—

今井悠 (M18EP002)

1. はじめに

日本は戦後の経済発展を遂げていく中で、経済的・物質的な豊かさを追求してきた。グローバル化や情報化の進展が著しい現代では、豊かで便利な暮らしができるようになるとともに、私達の生活は海外に大きく依存している。衣食に目を向けると、海外から輸入された食品や海外で生産された服が多く販売されており、私達の生活は海外の国々と切っても切れない関係である。

現代社会は開発を続けたことで、地球温暖化や資源の枯渇、経済格差の増大など様々な課題に直面している。その中で私達消費者には、これまでの生活スタイルを見直し、未来の人々が私達と変わることのない恩恵を受けることができるよう、国内外の社会的な課題や地球環境のことまで考えて生活することが求められている。諸課題に対し国際的には、「持続可能な開発のための2030アジェンダ／持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」が示されている。これは、2015年9月の国連総会で採択された。持続可能でより良い世界の実現のため、2030年を年限として、17の分野別目標を掲げ、世界規模での取り組みが始まっている。

国内では、「消費者教育の推進に関する法律」が2012年に施行された。この法律では、消費者教育を「消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育（消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を含む。）及びこれに準ずる啓発活動を行う。」と示している。また、消費者市民社会を「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費

生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会」と定義し、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することを基本理念として掲げている。

2. 研究目的

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』第2章 各教科、第8節 家庭、第2 各学年の内容、C 消費生活・環境の見方・考え方は、持続可能な社会の構築を主としており、内容もより一層充実してきている。児童期から繰り返し学んでいくことで持続可能な社会の構築を目指す消費者市民の育成につながるのではないかと。しかし、小学校における消費者教育の授業実践例は少ない。

以上を踏まえて、本研究では、持続可能な社会の構築に向け、身近な物の選び方・買い方を考える活動に焦点を当てて小学校で授業を実践し、その内容を検討することを目的とした。

3. 研究方法

- (1) 対象校 山梨県内の公立小学校
- (2) 時期 2019年5月～12月
- (3) 対象児童 第6学年A組（18名）
- (4) 実施方法
 - ①クラスの参与観察
 - ②文献調査
 - ③フェアトレードショップ「ぱるはぴ」
店長さんへのインタビュー調査及び
フェアトレード教室の参与観察
 - ④アンケート調査

⑤授業実践

○教科：家庭科

教材：蛍光ペン（エコマーク）

○教科：特別の教科 道徳

教材：バナナ（有機栽培）

4. 教科選定の理由

消費者教育の内容は主として家庭科や社会科に導入されているが、本研究では、特別の教科 道徳で実践を行った。授業実践に道徳を選んだ理由は2つある。

1 つ目は、『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』, 第 3 章 特別の教科 道徳, 第 3 指導計画の作成と内容の取扱い(6)において「…また、児童の発達の段階や特性等を考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。…」とある。学習指導要領に示された現代的な課題とは『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』では、「…例えば、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など、学校の特色を生かして取り組んでいる現代的な教育課題…」と示されている。

2 つ目は、2016 年に消費者庁から出された「学校における消費者教育の充実に向けて」では、「…消費者教育は、社会的な価値や目的を考慮しつつ、数多くの情報から、必要な情報や課題を発見し、その解決に向けた技能・知識、思考力や判断力の育成を目指すものであり、家庭科や社会科などの特定の教科・科目を通じて行われる必要は必ずしもありません。様々な教科・科目を通じて行うことや、教科横断的に相互に関連付けて行うことが可能と考えます。例えば、…社会科地理的分野の時間や英語の時間で、フェアトレードに関する内容を取り扱う、道徳でエシカル消費(倫理的消費)について考える、…生徒の発達段階に応

じ、学校教育の様々な場面において多様な切り口で消費者教育へのアプローチが可能で

す。」と示され、様々な教科・科目を通して消費者教育を行うとともに、道徳などでもフェアトレード等を用いた授業実践の可能性を提言している。

上記を踏まえ、消費者教育は社会科や家庭科だけでなく、様々な教科での横断的な指導が可能と考えられた。そこで、本研究では、実践教科として家庭科と特別の教科 道徳を選択し、消費者教育の授業を行うこととした。

5. 児童の実態

私達は普段買い物をする際、特に注意してみるのは価格だが、他にも安全性や品質の良さなど選ぶ視点は多くある。実際の生活では、商品を選ぶ意思決定が大切であり、特にこれからは持続可能な社会の構築に向けた商品を選択していく視点が重要となる。商品を選択する時に目安となるのが表示やマークである。児童の消費生活の実態を調査するため、アンケート調査を行った。(図 1・2 参照)。

図 1 より「自分の身のまわりのものは自分で選んでいますか？」という質問に対して、「自分で選んで買う」と答えた児童は 28%、「時々自分で選んで買う」と答えた児童は 61%であった。ここから、児童は自分で使うものに関心を持ち始めており、自分で使うものを選んでいることがわかった。図 1 より「商品の表示やマークを見て商品を買ったことがありますか？」という質問に対しては、「ない」と答えた児童が 55%であり、ほとんどの児童が商品の表示やマークを意識することなく商品を選んで買っていることがわかった。

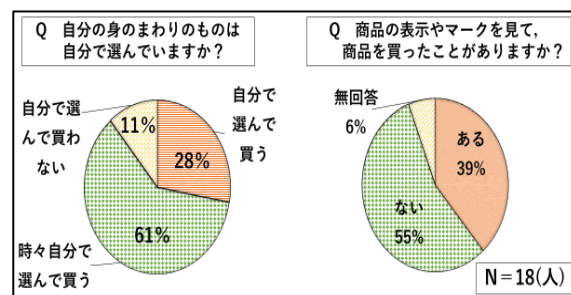


図 1 アンケート結果①

次に、「商品を買う時にどんな視点で選んでいますか？」という質問では 9 つの選択肢を用意し、自分がどれを重視して買い物をするか順位をつけさせた。図 2 は、上位 3 位までにどの選択肢が選ばれたのかを示したものである。「価格の安さ」を上位に挙げている児童が多く、買い物をするときに重視している。一方で、「表示やマーク」、「環境に配慮」を上位に挙げた児童は少ないことからいろいろな視点の中では、それほど注意していなかった。

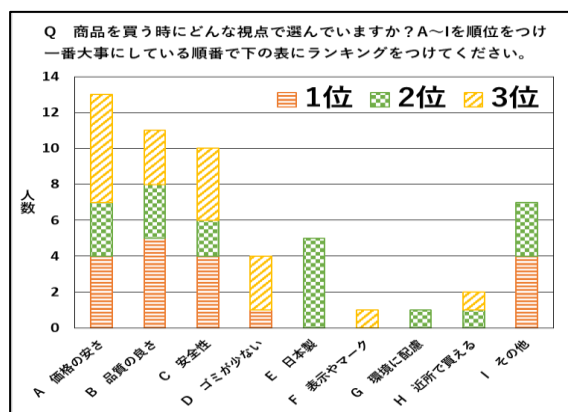


図 2 アンケート結果②

6. 家庭科の授業実践について

(1) 指導案について

①題材名 「商品を選ぶ時に大切なことを考えよう」

②目標

- ・身近な物の選び方、買い方を振り返り買い物の社会的な意味がわかる。
- ・買い物の社会的な意味がわかり、身近な物の選び方・買い方を考えることができる。

③日時 2019 年 10 月 31 日(木)第 4 校時

④ねらい

本題材では、持続可能な社会の構築に向けて主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を育てることをねらいとした。

指導に当たっては、エコマーク付きの文房具を用いた。エコマークは 5 年の家庭科で扱っており、児童にとって身近な物ではないかと考えられた。活動の軸として、エコマーク(有・無)の 2 つの蛍光ペンを比較

させることにした。実際に書き比べて自分だったらどちらを買うのか選択させることで、自分の生活を振り返りどのような視点で商品を選んでいるのか、選ぶ視点は一人一人の価値観によって違って良いことをおさえた。その上で、消費者が何を選ぶかによって、社会に大きな影響を与えており、私達の毎日の買い物は、お金の投票という社会的な意味があることを伝えた。

また、授業の最初では、エコマーク付きの商品を少し高い価格にして紹介した。そして、授業の最後に実は価格が同じであること、またエコマーク付きの商品はインクが補充でき繰り返し使えることを児童に話し、普段自分が商品を買う時にどこまで意識して物を選んでいるのか振り返らせ、身近な物の選び方・買い方を改めて考えさせた。

これらの学習を通して、自分たちの消費行動が社会や環境に影響を与えていることに気づき、より良い消費行動を実践していこうとする態度を育もうとした。

⑤展開

表 1 家庭科 学習指導案（一部抜粋）

過程	学習活動と内容（○発問）
導入	1. 文房具を選ぶときにどのような視点で選んでいるのか考える。 ○自分の使っている文房具をどんな視点で選んでいますか？ ・めあてを示す。 商品の選び方を考えよう
展開	2. エコマークの説明を聞き、エコマークがついた商品が自分の身のまわりにあるか調べる。 ○このマークを知っていますか？このマークがついた商品を探してみよう。 3. エコマークのついた商品とついていない商品を実際に使って選び、理由をつけて発表する。 A：エコマーク(有)蛍光ペン（130 円） B：エコマーク(無)蛍光ペン（100 円） 4. 買い物には社会的な意味があることを知る。
終結	5. まとめを行う。 ・本時の振り返りを行う。 ・学習感想を書く。

(2) 授業実践の結果と考察

授業では、エコマークについて聞くと、見たことはあるが意味を説明できる児童はいなかった。エコマークを教科書で振り返ることから始めた。児童が使っている文房具にはエコマーク付きの物が多かったが、マークを見て買った児童はいなかった。その後、蛍光ペンを選ぶ活動を通して、児童は消費者としてどのように買い物をしていけばよいのか身近な物の選び方・買い方について考えた。

学習後の児童の感想を表2に示す。表2より、表示やマークがついているか気にして買いたい、環境のことを考えて買いたいといったような意見が見られ、環境に配慮した選択を意識できたのではないかと考えられる。

また、値段が一緒だったらエコマークがついている物を買いたい、使ってみたいと書いた児童もいた。授業の最後に価格が同じであったと話したことで、自分でも環境に良い商品を選んでみよう、という意識形成につながったのではないかと考えられる。

表2 家庭科の授業感想

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・今までマークとか何も見ずに買っていたけれどこれからは、見てみたいと思った。・安さも大事だけど、環境のことも大事、これからはいろいろ考えて買おうと思う。・使っている時も商品のことを考えて、次に買う時、生かせるようにしたい。いつも値段で決めているけど、地球環境も考えてみようと思った。・もともとBが良いと思っていたが、値段が一緒だったらA使ってみたい。どっちも使ってみて（じっくり考えてから）自分に合った方を決めようと思った。・同じ価格だったら入れ替えできる（B）を買う。そっちの方が安いから。 |
|--|

また、参観していただいた大学の担当教員からは、「意思決定プロセスは、自分の価値観・生き方を反映するので、1時間の授業のみで消費行動が変容するのは難しいのではないかと考えられる。また、どの選択でも間違いはないが、社会にとって何が望ましいかということを自分の選択肢の中に入れて考えられるようになることは（価格も重要な選択肢の一つ）、これからの社会にとってとても重要となる。」と意見をいただいた。

(3) 成果と課題

教材として選んだエコマーク付きの文房具は、児童にとって身近な物であった。また、今後の生活でも自分が使用する物なので、文房具などの学用品を用いることで、日常生活で生かしてみようとする態度の育成につながると考えられた。

課題及びその改善方法として2つ挙げた。

1つ目は、授業時間が45分に収まらなかったことである。蛍光ペンを比較する活動を短く見直す必要がある。

2つ目は、エコマーク付きの商品を買うと社会にどんな影響があるのか、なぜ環境に配慮された商品を買うことが求められているのかなどについて考える活動が不足したことである。今回は、教師から買い物はお金の投票であり社会や環境を考えて買うことが大切であると伝えただけであった。そこで、グループ活動などを導入し社会や環境に配慮した商品を買うことの大切さを実感させながら、より良い消費行動につながるようにしていきたい。

7. 特別の教科 道徳の授業実践について

(1) 指導案について

①主題名 「良い買い物ってなんだろう」

内容項目 A- (3) 節度・節制

②ねらい

買い物とは、ただ物を買う行為ではない。自分の消費行動が、生産者の生活に影響を与えていることを理解し、生産者の生活や地球環境を考えながら自分の生活を見直していこうとする心情を養う。

③日時 2019年11月21日(木)第1校時

④主題設定の理由

(ア) ねらいとする価値

大量生産・大量消費の暮らしは、地球に大きな負担をかけており、私達は地球温暖化などの様々な課題に直面している。豊かな地球の資源には限りがあり、持続可能な生産や消費をしていくことで地球を未来につなぐ責任がある。消費者自身が持続可能な社会の形成のために望ましい消費行動を

していくことが、世界をより良くしていくことにつながっていくと考えられる。この時期の児童は、自我が確立してくるのにしたがって、自分で使う物を自分で選択するようになる。物を選ぶ視点は多様であるが、その中でもより重視しているのは価格の安さであった(図 2 参照)。そこで、買い物とは、ただ物を買うだけではなく、自分の消費行動が、生産者の生活や地球環境に影響を与えていることを理解し、生産背景を考えながら自分の生活の中で商品をどう選んでいきたいかという心情を養いたいと考え、本主題を設定した。

(イ) ねらいに関わる児童の実態

(※「5. 児童の実態」参照)

(ウ) 教材について

教材として児童に身近なバナナを選択した。バナナの生産には多くの課題がある。日本にやってくるバナナの約 7 割がフィリピンの農園でつくられたものであり、効率よくバナナを生産するために、大量の農薬を使用している。それによって、現地の土壌や水が汚染され食べ物や飲み水を買わなければ、暮らしていけないような地域もある。また、農薬による人体への健康被害も報告されている。一方で、フィリピン国内には、農薬を使わずにバナナを生産している地域も存在する。消費者として、環境や生産者の人々に配慮された商品を買うことで、社会や事業者にアピールしていくことが求められ、それが持続可能な社会をつくることにつながっていく。

しかし、安いバナナが売れないと、その生産者は少ない給料がさらに少なくなり、生活が成り立たない現状や、有機栽培に転換したくても、残留農薬があるため土壌や水質をすぐに改善することはできず、有機栽培という付加価値をつけて販売することもできない。そのような状況をふまえて、自分の消費行動はどうあるべきか、自分だけでなく、社会的な背景を考えながら生活していこうとする心情を育もうとした。

⑤展開

表 3 特別の教科 道徳 学習指導案

過程	学習活動と内容 (○発問)
導入	1. 買い物について自分がもっているイメージを確認し、学習の見通しをもつ。 ○「良い買い物」したと思う時はどんな時ですか？ ・学習問題を示す。 良い買い物って何だろう？
展開	2. 2 つのバナナからどちらを選ぶか決め、バナナの価格がなぜこんなに違うのか予想する。 ○2 つの中でどちらを選びますか。(ワークシートに記入・ネームプレートを黒板に貼る。) A : 100 円 / B : 315 円(有機栽培) ○なぜこんなに価格が違うのでしょうか。予想してみよう。 3. バナナの生産過程を知る。 4. 安いバナナの生産背景を知る。 ○この人たちの暮らしを見てどんなことを考えましたか？ 5. 高いバナナの生産背景を知る。 ○この人たちの暮らしを見てどんなことを考えましたか？ 6. なぜ安いバナナを作るのか考える。 ○なぜ安いバナナをつくるのでしょうか？でもこれを続けていると現地の人の生活はどうなりますか？ ○バナナが売れないと現地の人の生活はどうなりますか？ (A が売れても売れなくても A の生産者の生活は苦しい。) ◎A と B どちらのバナナを買いますか？理由も合わせて書きましょう。(個人→班→全体)
終結	7. まとめを行う。 ・学習感想を書く。 良い買い物って何だろう？

(2) 授業実践の結果と考察

本時の授業では、A と B のバナナのどちらを買うか選択し理由や考えを交流して、身近な物の選び方・買い方を考える活動を軸に設定した。1 回目(展開 2 の場面)は、価格と有機栽培の表示があるかないかという情報だけで選択し、2 回目(展開 6 の場面)は、2 つのバナナそれぞれの生産背景を説明し、A のバナナが

売れても売れなくても A の生産者の生活は苦しいことをおさえて選択した。1・2 回目どちらのバナナを選んだのかを図 3 に示す。

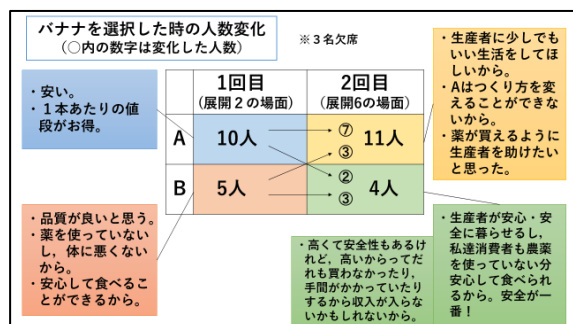


図 3 バナナを選択人数と選択理由

図 3 より、1 回目に A を選んだ理由としては、価格の安さが挙げられた。一方、B は農薬を使っていないから体に悪くない、安全だと思うという意見が挙げられた。

2 回目の選択理由についてワークシートの児童の記述は次の通りである。A を選んだ理由としては、「生産者に少しでもいい生活をしてほしいから。」「A はつくり方をかえることができから。」「薬が買えるように生産者を助けたいと思った。」などと書かれていた。一方、B を選んだ理由は、「高くても安全性もあるけれど、高いからってだれも買わなかったり、手間がかかっていたりするから収入が入らないかもしれないから。」「B の方が、生産者が安心・安全に暮らせるし、私達消費者も農薬を使っていない分、安心して食べられるから。安全が一番！」という意見が書かれていた。

2 回目にバナナを選んだ後に、班で意見を交流させ、全体で意見を共有した。班活動の中で意見を交流し、なぜそう考えたのか話し合わせる予定であったが、指示の出し方が悪く、意見共有だけでなく解決策等を話し始めてしまった。そのため、全体での話し合いは、班での話し合いを通して個人がどう思ったのかではなく、解決策を提案する時間となってしまった。特に、2 回目で B を選んだ児童の意見を全体で共有することができず、議論が深まらずに授業が終わった。

また、授業の終結(展開 7 の場面)での「良い

買い物って何だろう？」という問いに対しての児童の意見を表 4 に示す。児童の学習感想として多かったものは、生産者の生活や自分の生活を考えながら物を選びたいなどであった。生産者の生活に注目した意見が多く、環境面に触れて書かれている感想は少ない。児童のこのような記述について考えられる理由としては、生産者の生活が苦しい、かわいそうという部分が児童の印象に残り、一面的な見方が形成されたからだと考えた。

表 4 特別の教科 道徳の学習感想

・生産者の事を考えて買い物をしたときはいい買い物をしたなといえるのではないかな。 ・自分が買う時に目をつけること(価格・安全性など)も大事だが、生産者の暮らし、生活とかに着目すると私的には生活が苦しい方を買いたい。 ・値段も安くてそして生産者のためにちょっとでも役に立てるような買い物がよかったな一と思える買い物だと思う。 ・自分が得するののももちろんだが生産者のことを考えて買い物をすれば、生産者も自分もうれしいから自分も得で生産者もうれしい物を買えば、いい買い物といえる。 ・良い買い物とは、生産者も消費者も安心、安全なくらしができることだし、生産者が平凡なくらしを送れることだと思う。生産者のことを考えて買うことだと思う。 ・良い買い物とは、他の人の役に立てる買い物をしたとき(でも価格も大事)。生産者のためになる買い物。生産者も自分も安全になれるもの。

(3) 授業実践の課題と要因

なぜ児童の考えに偏りが出てしまったのか省察した。原因として環境面に関する説明が足りなかったことが挙げられる。そのような場面を 2 つ挙げる。

まず、1 つ目は、展開 2 の有機栽培の説明の場面である。表 5 に、B のバナナに表示されていた有機栽培を説明した際のプロトコルを示す。本時の授業では、後半の考えさせる部分に時間をとりたかったこともあり、有機栽培について簡単な説明で済ませてしまった。これにより、一部の児童のみが理解し、私達にとっても安全だけど、生産者の人の生活も安心・安全であることを十分におさえることができなかった。また、参観者の先生からも、「この有機栽培の場面で、先生はさらっと流してしまっただけで、だれの環境にいいの？だれにとっての安心安全なの？(私達だけじゃな

い、現地の人も安心・安全等)主体をしっかりと押さえるとよかったのではないかと意見をいただいた。

表 5 展開 2 の授業プロトコル (一部抜粋)

教師	こっちの B っていうのは一応有機栽培って表示がありました。
児童	あ～
教師	有機栽培ってわかる？
児童 X	あ～なんか、農薬とか使わないで育てているやつ？
教師	そうそう、作っているときに農薬を使いません、っていうのが有機栽培なんだけど、スーパー行くとバナナって色々な値段の物があるよね。A と B、どちらのバナナを買いますか？みんなだったら。

2 つ目の場面として、展開 6 の場面を挙げる。まず、図 4 に展開 6 の予定していた流れを示す。道徳の授業であるので、考えを深めることができるよう、A のバナナが売れても売れなくても A の生産者の生活は苦しいという場面を設定した。

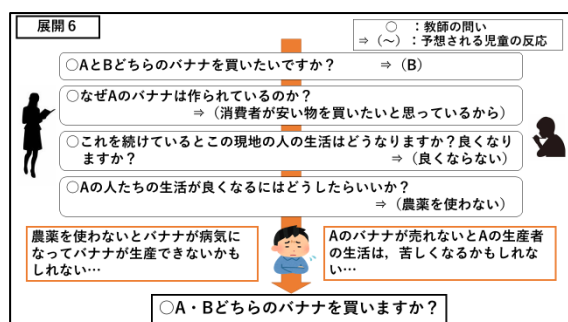


図 4 展開 6 の予定していた流れ

展開 6 の授業プロトコルを表 6 に示す。表 6 の授業プロトコルより、児童 Y から、「とても貧しい暮らしをしているし、それを買うことによって、お金が入って借金とかを返せるかもしれないから、その人たちのために A を買いたい。」という発言があり、A のバナナが売れないと A の生産者の生活は苦しいという視点が出てきた。しかし、A のバナナを作り続けても A の人たちの生活は変わらないというもう一つの視点は、教師が問いかけても児童の反応が返ってこなかったため、一方的に教師が説明した。この場面から、これよりも前に既に多くの説明を加えていたので、情報

量が多すぎて集中力が切れてしまった。また A の生産者の生活が苦しいという意見は、スライドでの説明と、児童 Y の発言があったことから、児童の印象に残り、心情が左右された要因になったと考えられた。

表 6 展開 6 の授業プロトコル (一部抜粋)

教師	2 つの背景を知って、どっちの人が作ってくれたバナナ買いたい？あつ、Y さん。
児童 Y	A
教師	A のバナナ、なんで A なの？
児童 Y	え、あの一、とても貧しい暮らしをしているし、それを買うことによって、お金が入って借金とかを返せるかもしれないから、その人たちのために A を買いたい。
教師	なるほど。買ってあげることで？
児童 Y	その人たちを支援したい。
教師	なるほど。Y さんが言ってくれたのは一理あって、今、B のバナナ買った方がいいんじゃないか、と思った人いると思うんだけど、(省略) A のバナナが売れないと、生産者の人のところには、より少ないお金が行くことになるんだよね。だから、A のバナナを買って、A の人たちを支援したいっていう思いもあるよね。(※スライドで説明しながら話す)
教師	ねえでも、A のバナナを買っていると、A のバナナの人たちの環境とか暮らして良くなる？変わりますか？A のバナナを買いつけてたら。
児童	うーん。(つぶやき)
教師	どう思いますか？Z さん。
児童 Z	変わらない。
教師	変わらないんだよね。じゃあどうすればいい？どうやってつくったらいい？A の人たちの生活を変えるには。
	シーン
教師	例えば、問題になっている農薬を使わなかったらいいんじゃないか。でもね、農薬使わないと、病気にかなりやすいバナナだから、もしかしら生産量が落ちちゃうかもしれない。そうになったら、もはや売れる物もない。そうすると暮せなくなっちゃう。
	シーン
教師	もう一回みんなに選んでほしい。A と B どちらを買うか。

また、参観者の先生からは、「先生がところどころで『有機栽培って？』『生産者の環境ってどうなるの？』と問いかけた後の説明が、さらっと流してしまいもったいないと感じた。そのこともあり、環境面でのおさえが足りなかったのも、生産者の生活が成り立たない＝かわいそうというイメージの形成につながったのではないかと意見をいただいた。また、管理職の先生からは、「授業の流れや ICT の活用等はよかったと思う。しかし、果たしてこ

これは、特別の教科 道徳の授業でよかったのか。今回の『節度・節制』の価値項目と、本時のねらいは少しずれているように感じる。また、『良い買い物って何だろう?』という主題であったが、これは道徳の目標としてはどうなのだろうか。道徳は今年度から教科化になっているので、何をやってもよいというわけではなく、価値項目はしっかりとおさえなければならないと思う。」と意見をいただいた。

(4) 成果と課題

授業では、以下3つの課題が見いだせた。

1つ目は、教材としてバナナを選んだが、1時間の中で理解するには情報量が多く、児童にとって難しい授業となってしまった。そのため、生産背景や環境への配慮が児童の中に十分におちないまま、授業が展開されてしまったので、「生産者＝かわいそう」というイメージがつくられ、一面的な見方になってしまった。また、児童に考えさせる手立てとして、「Aのバナナが売れないとAの人の生活が苦しい」と説明したが、実際は、Aのバナナが売れたからといって企業に搾取されてしまうためAの生産者にお金が入るわけではない。しかし、今回は時間の関係でその部分は説明をしなかった。それによって、「Aを買うことで、Aの生産者の助けになる」という考えに引っ張られてしまった。教材研究を深め、何を児童に伝えるのか情報を精選する必要があった。

2つ目は、スライドでの説明は児童の印象に残るため、提示する内容を精選し、比較する際は偏りがないようにする必要があった。

3つ目は、消費者教育はより良い消費者市民の育成を目指し収束していくものである。しかし、特別の教科 道徳は、答えが一つではないので、授業のねらいにずれが生じ、道徳で消費者教育を行うことの難しさを感じた。

8. おわりに

本研究では、持続可能な社会の構築に向け、身近な物の選び方・買い方を考える活動に焦点を当てて授業実践を行った。

2つの授業実践を通して、経済的に自立していない児童にとって、普段の消費生活で社会や環境に配慮した商品を選択して購入する機会は少ない。だからこそ、児童期の段階ではまず、物の生産背景や廃棄過程、身近にあふれるマークや表示にはどんな意味があるのかなどを、授業を通して知ること、考えることが重要なのではないだろうか。3学期の家庭科の授業で、生活の振り返りをしている際、「エコマークがついているか見て買うようにしている。」と発言した児童がいた。このことから、児童の身近な物に焦点を当てて授業をすることで、自分の生活でも試してみようとする態度の育成につながっていくのではないかと考えられた。

また、「第20回山梨大学教職大学院 教育実践フォーラム」において発表をした際、道徳の授業に関して「道徳の価値項目を大切にしつつも一つの価値にとらわれない授業であり、提案性の高い内容であった。」と意見をいただいた。道徳の授業実践では課題も多かったが、今後の授業づくり、教材研究に生かすことのできる多くの示唆が得られた。

児童期から繰り返し指導していくことで、児童が自分の生活に生かすことができるものが増え、より良い消費者市民の育成につながっていくのではないかと考える。

引用文献

- ・文部科学省(2017).『小学校学習指導要領(平成29年告示)』p.138, p.171
- ・文部科学省(2017).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』p.99
- ・消費者庁(2016).「学校における消費者教育の充実に向けて」. pp.5-6

謝辞

本研究を進めるにあたり、貴重な授業実践の機会を与えてくださり温かくご指導くださった連携協力校の先生方、教材研究にご協力いただいたフェアトレードショップ「ばるはび」の皆さんに厚く御礼申し上げます。